

# 教区納骨者および死者祈念ミサ



カテドラル地下の納骨堂に献香と灌水を行う様子

11月は死者の月。3日(祝・木)の11時から、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で教区納骨者および死者祈念ミサが行われた。人数制限は行われなかったが、コロナ禍以前の約7割の480人程度が当日参列した。

ミサ説教で主司式の酒井俊弘司教は、悲しみを「読み取る方法」が重要だという教皇フランシスコの言葉を引用し、人生における悲しみの役割と向き合い方について語った。私たちが立ち止まって、神の摂理を受けとめることができるよう、また悲しむ人に寄り添うことができるように、聖母に取り次ぎを願いながらミサがささげられた。

ミサ説教の動画 ▶



## ラジオ 信仰の時間

### 聖母マリアと日本

〈10月2日放送分〉

Sr 戸村晴美

(師イエズス修道会・みなとブロック協力)

カトリック教会では10月を「ロザリオの月」と定め、家庭でも教会でもロザリオの祈りを祈るよう勧められています。この「ロザリオ」という名称はラテン語の「ロザリウム(バラの冠)」に由来するもので、珠を繰り返しながら唱える祈りがバラの花輪を編むような形になるからと言われています。カトリック教会におけるこの伝統的な祈りは「アヴェ・マリアの祈り」を繰り返しながら、イエス・キリストの生涯を黙想するようになっています。ロザリオの祈りは聖母マリアのすべてを想起させる、身近で親しみやすい、聖母に全幅の信頼を置く祈りの一つといえるでしょう。

ロザリオの月にちなんで、日本にまつわる聖母マリアのエピソードをできるだけ年代順に紹介したいと思います。

#### 都の聖母

1549年、聖フランシスコ・ザビエルによって日本にキリストのみことばの種が蒔かれ、その種は成長し、1597年、長崎の西坂の丘で26人が殉教しました。彼らは日本のカトリック教会の初穂といわれます。

1862年、日本ではキリシタン禁令の時代、教皇ピオ9世によりこの26殉教者が聖人の位にあげられました。その頃、フランス東部サン・クロード司教区のレオン・ロバン神父は日本の殉教者の記録を読み、深く感激して日本人のた



#### ルルドの聖母

フランスの「ルルド」といえば、キリスト教徒でなくてもご存知の方が多いと思います。このルルドでの「聖母マリアの出現」があったのは1858年2月11日、村の14歳の少女ベルナデッタ・スビルーが郊外のマッサビエルの洞窟のそばで薪拾いをしているときのことでした。この聖母の出現の出来事はやがて世界中に広がり、世界各地で「ルルド」が作られるよう

めの祈祷会を起し、日本にキリストの教えを再び伝えるために、教皇から派遣される宣教師が入国できるように祈る運動を始めました。同神父はザビエルが、聖母に奉獻した聖堂を京都に建てたいと望んでいたことを知り、1864年、ザビエルが日本に携えて来たと言えられる聖母の聖画をもとに6体のブロンズの聖母像を鑄造させました。翌1865年、教皇ピオ9世から祝別を受け、これらを「都の聖母」と命名しました。その中の一体が「京都の市街を見おろす丘に埋めてください」というロバン神父の手紙が添えられ、すでに日本に入国していたパリ外国宣教会の宣教師のもとに届けられました。1873年、同会フランソワ・ポーラン・ヴィグラー神父によって「都の聖母」像は市内を見おろす東山將軍塚に埋められました。その6年後の1879年、京都に赴任したエメ・ヴィリオン神父によって掘り出され、1890年、京都で最初に献堂されたカトリック河原町教会(現京都カテドラル)に安置されました。



諸問題の静かな温床

第4章「全世界に開かれた心」・第5章「最良の政治」

キーワードで読み解く

## 兄弟の皆さん

連載第4回(全7回)

酒井俊弘補佐司教

第4章「全世界に開かれた心」・第5章「最良の政治」の教皇フランシスコならではのキーワードをご紹介します。

いのちを得るのに支払いはしていません。

わたしたちは無償でいのちを受けました。いのちを得るのに支払いはしていません。だからわたしたちは皆、何ら期待せず、与えることができるのです。

スペイン語版のvecindario(おそらく教皇様自身が使い慣れた言葉の名訳です)。

橋を架ける……働き口を創出する

直接の見返りを求めずに外国人を無償で受け入れることは、当たり前前のことなのです。

#### 向こう三軒両隣

152 いわゆる下町のようないわゆる「向こう三軒両隣」の精神を生き延びてい

186 お年寄りが川を渡るのを助ける——それはすばらしい愛のわざで、政治家が橋を架けることもまた愛のわざなのです。食事を差し出すことで他者を助ける人がいれば、政治家はその働き口を創出する——それは崇高な愛のわざであって、

その政治活動を高貴なものとするのです。

どれだけの愛を仕事に注いだらうか

197 数年後、自分の過去を振り返ったときの問いが、「どれほどの人がわたしを認めてくれたらうか。どれほどの人がわたしに投票したらうか……」となってしまうようにです。……「わたしはどれだけの愛を仕事に注いだらうか。民が前に進めるよう何をしたらうか。社会の生活にどのような足跡を残せたらうか。どのような真のきずなを築けたらうか……」。

政治(家)が本当に目指すべきものを教皇はこう示されています。

になりました。

#### 日本人にルルドを伝えた人物

日本にルルドの聖母出現を最初に伝えたのは、1863年に来日したフランスのタルブ・ルルド司教区ガルデール出身のジョゼフ・ロケニューという宣教師です。ガルデールはルルドの隣村であり、彼自身、当時フランスの民心を湧き立たせたルルドの聖母出現について深い関心を持っていましたので、「どこに行ってもルルドの聖母について語った」と記されています。

来日後、大浦天主堂に赴任し、1865年3月17日、日本の信徒発見に立ち会っています。以降、浦上の秘密聖堂で潜りミサ。1867年1月からは毎日浦上を巡回。日曜日のみ大浦天主堂に戻るといって毎日を送っています。1867年7月迫害開始。この時、信徒の家にいた神父は「逃げる！」という声を聴き、裏口から脱出。浦上の谷底の森にしばらく潜伏し、周囲が落ち着いてから大浦に戻ったと記しています。1873年4月キリシタン禁制撤去。帰郷した浦上キリシタンを司牧。1874年、長崎にて補佐司教叙階。1876年、大阪定住。1885年、丹毒を発症し、1月15日、大阪で亡くなりました。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送

12月担当: 春名昌哉神父

ABC ラジオ (朝日放送) AM1008/ FM93.3

スマホアプリの radiko でも聴けます。